

助成年度：平成 22 年度

[所属] 弘前大学 農学生命科学部

[役職] 准教授

[氏名] 石塚 哉史

[課題]

## 輸入農産物依存下のわが国における地域特産物の存立条件と持続的発展に関する実証的研究

[内容]

本研究では、地域特産物産地を維持することを前提に、①輸入農産物の対抗策を策定するには、どのような条件・施策が必要であるのか、②わが国における地域特産物産地における持続的発展の可能性、の2点について、現況を踏まえ農業経済学の見地から検討した。具体的には、輸入国である日本では、国際化時代に対応した青森県のながいもの取組を、輸出国では中国産小豆の最大産地である黒龍江省の対日輸出の実態を中心に分析を行った。

分析の結果、第1に青森県におけるながいもの事例では、新たな販路として海外への輸出事業を積極的に行っている。こうした輸出という新たなチャネルの確立は農産物では斬新なケースであるため、流通量の維持に苦しんでいる産地のマーケティング戦略を検討する上では参考となる事例であろう。第2に中国産小豆の対日輸出の事例では、日本国内の消費ニーズに適合できるよう原料調達方法が変化しており、品質の高い原料農産物の契約取引が行われており、日中間の品質格差が縮小されつつある。